

アカデミック・スキルの評価と注意欠如／多動性障害傾向¹

大久保 純一郎

問題

近年、発達障害と考えられる児童や成人が急増している。文部科学省(2012)の調査によると、発達障害によって行動面や学習面で著しい困難がみられると担任の教師が回答した児童生徒の割合は約6.5%であった。さらに、大学等の高等教育機関でも、何らかの発達障害を持ち、学習や対人関係など、学生生活を送る上で問題を抱えている学生が多く在籍していると考えられる。これらの学生の実態を把握するとともに、その支援を行うことが高等教育機関における目下の急務であると言える。

そこで、私どもは大学生の発達障害傾向と生活上の困難について検討を始めた。林(2013)は、質問紙調査を行い、自閉症スペクトラム障害の疑いのある学生が6.5%、注意欠如／多動性障害(AD/HD)の疑いが、24.3%にのぼることを示すとともに、それらの学生が、生活上の困難、抑うつ傾向などを強く感じていることを示した。

本研究では、一般学生の学業上の困難について調査するとともに、学業困難とAD/HD傾向の関連性について探索的な検討を行った。したがって、本研究では、統計学的に整った質問紙を作成するのではなく、その前段階として、学業上の困難や、AD/HD傾向について判断できる項目を収集し、それらの質問への回答について分析を行った。

方法

調査対象者

4年制大学に在籍し心理学関連科目を受講する2・4年次生116名(女性, 74名;男性, 42名)を調査対象者とした。そのほとんどの学生が文科系の学部部に所属していた。

質問紙

本研究で用いた尺度は、1)アカデミック・スキルに関する質問紙、2)AD/HD傾向に関する質問紙、ならびに3)ストレス関連尺度の3種類であった。

1)アカデミック・スキルに関する質問紙:Minskoff & Allsopp(2002)が開発したActive Learnerプログラムにおいて用いられるアカデミック・スキルに関する質問紙を参考にして65項目からなる質問を構成した「アクティブ・ラーナー学生用質問紙」を用いた。下位尺度は、組織化:時間の管理、組織化:ものの管理、試験を受ける、学習スキル、ノートをとる、読書語彙、読書:理解、筆記:メカニクス、筆記:作文、数学:基礎的数学スキル、数学:代数の基礎、高度な思考の12尺度であった(Table 1)。

2)ストレス関連項目:8項目で、ストレスとサポートの2

つのグループからなるストレスに関係する項目を用いた(Table 1)。

3)AD/HD傾向に関する質問紙:成人用のAD/HDについてのユタ診断基準(Wender, 1995)を参考に作成した「AD/HD傾向尺度」を用いた。質問は、28項目で、多動、注意困難、感情の易変性、無秩序・課題完遂不能、かんしゃく、情緒過活動、衝動性の7下位尺度から構成された(Table 1)。

各尺度の下位尺度と項目はTable 1に示されたとおりである。全ての尺度で、各項目に「はい(1)」から「いいえ(3)」の3段階で回答を求めた。各下位尺度得点はその平均値とした。全ての下位尺度で、高い数値は、困難や問題が少ないことを示す。サポート下位尺度の場合のみ、その逆に低い数値が、困難や問題の少ないことを示す。

手続き:

講義時間中に質問紙を配布し、その場で回答を求め回収した。

倫理的な配慮:調査前に、調査内容の説明を行うとともに、個人情報やプライバシーの保護について説明した。また、質問紙への回答は対象者の自由で、途中で辞めることも可能であることを伝え実施した。調査用紙の回収や保管には十分な注意を行った。また、得られた情報は本研究以外の目的には使用しないと、対象者に伝えた。

結果

質問紙の項目単位の分析

すべての質問項目への反応をTable 1a,bに示した。表にみられるように、ほとんどの項目において反応の偏りがみられた。また、対象学生数も多くないため、多変量解析等の分析が困難であり、実際に分析を行ったが適切な解は得られなかった。したがって、本論文では、項目単位の検討から行うこととした。また、全体的な分析では、分析結果によらず、項目の意味による下位尺度を用いた。

アカデミック・スキルについて アクティブ・ラーナー学生用質問紙の各項目について、反応パターンから困難を感じている程度(困難度)を算出した。平均値を各項目の困難度とした。その上位25%(■とマーク)と下位25%(□とマーク)を表に示した。受験スキルや学習スキルの一部、読書語彙、ならびに作文(筆記)に困難を感じている学生が多いと言える。また、数学的スキルや、筆記の基礎的技術(メカニクス)において困難を感じている学生は少ないと言える。しかしながら、質問の設定のしかたによって反応は変化するため、これらの結果が「真の困難度」を

Table 1a 各質問項目への反応(1)

質問紙の質問項目 尺度	下位尺度	項目	反応(%)			平均	SD	困難 度*1
			はい	時々	いいえ			
アクティ ブ・ラー ナー学 生用質 問紙	組織化: 時間の管理	私は、手帳やカレンダーを使わない。	10	18	71	2.61	0.67	
		私は、試験や宿題の記録はつけない。	23	24	52	2.29	0.82	
		私は、授業に出るのに苦労する。	4	37	57	2.53	0.58	
		私は、目標を定めることが難しい。	16	42	41	2.25	0.72	
	組織化: ものの管理	私は、それぞれの授業に別々のノートを持っていない。	27	7	64	2.37	0.89	
		授業に必要なものを持って行くのを忘れてしまう。	3	54	42	2.39	0.56	
		家での自習や宿題に必要なものを、持って帰るのを忘れてしまう。	0	13	86	2.86	0.35	□
		私は、試験を受けるときとても強く緊張する。	20	49	30	2.09	0.71	■
	試験を 受ける	私は、試験の答えを時間内に書き上げることが難しい。	2	40	57	2.54	0.55	
		私は、(試験の)指示や質問文を注意深く読まない。	7	38	53	2.46	0.64	
		私は、多肢選択式の問題を理解するのが苦手だ。	5	21	73	2.68	0.57	
		私は、○×式の試験が苦手だ。	2	18	78	2.76	0.49	□
私は、論文式試験が苦手だ。		26	42	31	2.04	0.76	■	
私は、試験中、それまで勉強してきたことを思い出すのに苦労する		6	57	36	2.30	0.58		
学習スキル	私は、勉強をしはじめるのに苦労する。	42	44	12	1.71	0.69	■	
	私は、勉強している時に集中し続けることができない。	24	50	25	2.02	0.71	■	
	勉強している時に周りで起こったことで、簡単に妨害されてしまう。	24	44	31	2.07	0.74	■	
	自分のノートで勉強するのは、むづかしい。	4	22	73	2.69	0.55		
	本で勉強するのは、むづかしい。	12	29	57	2.45	0.71		
	私は、本とノートで調べた情報を、どうまとめればよいかわからない。	6	26	66	2.59	0.62		
ノートをとる	試験のための情報を思い出すのに苦労する。	6	37	55	2.48	0.63		
	話す速度が早すぎるので、先生の言ったことをみな書くことができない	14	50	34	2.20	0.68	■	
	私のとったノートは、まとまっていな、理解することがむづかしい。	7	32	59	2.52	0.64		
	テープに録音された講義をノートに取ることはむづかしい。	14	18	66	2.52	0.74		
	自分のとったノートを読んでも、役に立たない。	4	19	75	2.72	0.54	□	
	私は、混乱しやすいので(気が散りやすいので)、ノートを取るのが苦	9	18	71	2.62	0.66		
読書語彙	むづかしいことばを読んで理解するのは、苦手だ。	22	39	37	2.16	0.76	■	
	私は、学んだことばをすぐに忘れてしまう。	14	50	34	2.20	0.68	■	
	授業のための文章を読む時、全体の意味を理解するのに苦労する。	12	38	48	2.35	0.70		
	文章を読んだ時、その中心となる意見を理解するのに苦労する。	10	43	46	2.36	0.67		
読書:理解	文章を読んで、その細かな点について理解することに苦労をする。	14	43	41	2.27	0.70		
	文章を読んで、そのストーリーを理解するのに苦労する。	3	26	69	2.66	0.54		
	私は、読むのが遅い。	25	22	51	2.26	0.85		
	私は、コンピュータの画面に書いてあることを理解するのに苦労す	8	28	62	2.54	0.65		
	私は、いつも読むための補助器具を使わない。	85	7	6	1.22	0.56	■	
	筆記: メカニクス	私は、漢字を書くのが苦手だ。	9	16	74	2.65	0.65	
私には、うまく送りがなをつけることがむづかしい。		1	16	81	2.80	0.44	□	
私は、句読点を正確に書くのに苦労する。		3	16	80	2.77	0.50	□	
私は、文の係り結び(主語と述語の関係)をうまくできない。		2	8	88	2.86	0.42	□	
私は、よい文章を書くのに苦労する。		24	46	29	2.05	0.73	■	
私は、漢字、送りがな、係り結び、文章など校正することがうまくできな		5	18	75	2.71	0.56		
筆記:作文	私は、まとまった文章を書くのに苦労する。	21	41	37	2.16	0.75	■	
	私には、自分の言いたいことを表すことばを見つけることが難しい。	22	50	26	2.04	0.70	■	
	私は、文章を書くとき、自分の意見をまとめるのに苦労する。	27	37	35	2.08	0.79	■	
	私には、文章の導入と結論を書くことが難しい。	24	35	40	2.16	0.79	■	
	私は、研究レポートや小論文を書くとき、情報を見つけ出すのに苦労	16	45	37	2.22	0.71	■	
	私には、特定のテーマにそって文章を書くことが難しい。	18	33	48	2.30	0.76		
数学:基礎 的数学スキ ル	私は、自分の書いた文章が筋の通ったものかどうか調べるために校 正することに苦労する。	19	44	35	2.16	0.73	■	
	私は、整数や分数の問題を解くための計算をするのに苦労する	4	10	85	2.81	0.49	□	
	私は、数字の桁の値を判断するのに苦労する	6	10	83	2.78	0.55	□	
	私は、数を比較するのに、大なり、小なり、イコールなど判断に苦労	0	4	95	2.96	0.20	□	
	私は、整数や分数を使った文章題を解くのに苦労する。	2	16	81	2.78	0.47	□	

*1 アクティブ・ラーナー学生用質問紙の各項目について反応パターンから困難を感じている程度を算出し、上位25%に■を、下位25%に□をつけた。

Table 1b 各質問項目への反応(2)

質問紙の質問項目 尺度	下位尺度	項目	反応(%)			平均	SD	困難度*1	
			はい	時々	いいえ				
アクティブ・ラーナー学生用質問紙	数学:代数の基礎	私は、計算や問題を解くために交換法則を使うのに苦労する。	1	5	93	2.91	0.34	<input type="checkbox"/>	
		私は、計算や問題を解くために、(数式の)結合法則を使うのに苦労する	5	12	82	2.78	0.53	<input type="checkbox"/>	
		私は、計算や問題を解くために、(数式の)分配法則を使うのに苦労する	2	8	88	2.86	0.42	<input type="checkbox"/>	
		私は、問題を解くのに、演算の順序を使うことに苦労する	4	10	85	2.81	0.49	<input type="checkbox"/>	
		私には、負の数と正の数を足すことが難しい。	2	2	94	2.92	0.35	<input type="checkbox"/>	
		私には、数の平方根を計算することが難しい。	8	16	75	2.66	0.63		
	高度な思考	私には、1元方程式を解くことが難しい	2	13	83	2.81	0.46	<input type="checkbox"/>	
		私には、文章題の代数問題を解くことが難しい。	6	23	70	2.65	0.59		
		私は、継続的な情報をまとめることに苦労する。	8	43	47	2.39	0.64		
		私は、いろいろな意見を比較したり、対比したりすることに苦労する。	11	27	61	2.50	0.69		
		私には、どのようにすれば、個々の情報がカテゴリーにまとめられるのか理解することが難しい	9	31	59	2.50	0.67		
		私には、ものごとの因果関係を見つけ出すことが難しい。	6	40	52	2.46	0.62		
ストレス関連項目	ストレス反応	私は、問題解決するのに苦労する。	12	53	33	2.21	0.65	<input checked="" type="checkbox"/>	
		日頃ストレスをよく感じる	29	49	21	1.92	0.71		
		睡眠がよくとれない	15	24	60	2.45	0.75		
		食欲がない	2	20	76	2.74	0.50		
		いらいらすることがある	18	62	18	1.99	0.61		
		憂うつな感じがする	16	51	31	2.16	0.68		
	サポート	楽しく生活できる	57	37	5	1.47	0.60		
		自分が困ったとき助けてくれる友人がいる	81	12	6	1.24	0.55		
		家族は自分が困ったとき必ず助けてくれる	82	7	9	1.27	0.62		
		多動	落ち着きがない	9	34	56	2.47	0.67	
			リラックスできない	5	36	58	2.53	0.60	
			神経が高ぶっている(不安というのではなく)	6	25	68	2.63	0.60	
じっと座ってする活動(映画やテレビを見るなど)が続けられない	3		18	78	2.75	0.51			
いつも何かをしている	8		25	65	2.57	0.65			
活動していないと不快になる	5		20	74	2.69	0.57			
AD/HD傾向項目	注意困難	会話に耳を傾けることができない	3	21	75	2.72	0.52		
		注意散漫(関係ない刺激にいちいち気づいてしまう)	10	39	50	2.40	0.67		
		「読む」活動に集中できない	12	28	58	2.46	0.72		
		物忘れが多い	11	37	50	2.40	0.68		
		車の鍵や財布などをしょっちゅうなくしたり置き場所がわからなくなる	11	22	66	2.55	0.69		
		今しようと思っていたことを忘れる	13	49	37	2.23	0.68		
	感情の易変性	「心がどこかへ行ってしまう」ような状態になる	10	28	61	2.51	0.68		
		正常な気分から抑うつへ、あるいは穏やかな多幸感、興奮へと劇的に変化する	15	16	68	2.53	0.75		
		無秩序・課題完遂不能	課題や仕事、作業を最後まで終わらせることができない	3	25	71	2.68	0.54	
			ひとつの仕事から次の仕事へ無計画に移る	16	31	51	2.35	0.75	
			活動を行う上での時間の組み立てを秩序立てて行うことができない	13	30	56	2.42	0.72	
		かんしゃく	粘り強さに欠ける	20	38	40	2.20	0.76	
統制を失いやすい	6		27	66	2.60	0.60			
いらいらしやすい	15		38	45	2.30	0.73			
情緒過活動	かっとなりやすい	6	25	68	2.63	0.60			
	抑うつ、混乱、不安、怒りなどに過剰に、または不適切に反応し適切な、問題解決が妨げられてしまうことが多い	8	25	66	2.58	0.65			
	衝動性	物事をきちんと考える前に話す	15	48	36	2.21	0.69		
他者の会話に割ってはいる		4	30	65	2.61	0.57			
短気(たとえば運転の時など)		6	19	74	2.68	0.58			
		衝動的になりやすい	6	29	63	2.57	0.62		

*1 アクティブ・ラーナー学生用質問紙の各項目について反応パターンから困難を感じている程度を算出し、上位25%に■を、下位25%に□をつけた。

示すとは言えないため、解釈には慎重な注意が必要である。

ストレス関連尺度とAD/HD傾向 ストレス反応項目は、比較的反応のひずみが少ないと言える。しかし、「睡眠がよくとれない」、「食欲がない」、「楽しく生活できる」は、反応の偏りが強く、問題のある反応を示す対象者は少数であった。また、ソーシャル・サポートに関する項目も8割以上が友人や家族のサポートを受けられると応えている。したがって、これらの項目で、ネガティブな回答を行った者は、問題を持つ可能性が高いと言えよう。

また、AD/HD傾向項目では、ほとんどの項目で反応の偏りがみられ、ポジティブな反応を示す者が多数であると考えられた。

質問紙の下位尺度の分析

質問紙の各下位尺度について分析を行った。アクティブ・ラーナー学生用質問紙は、Minskoff & Allsopp(2002)の分類にしたがって、AD/HD傾向尺度は、Wender (1995)の分類にしたがって下位尺度を構成した(Table 1a, b参照)。アカデミック・スキル尺度の各下位尺度の平均値と標準偏差をTable 2に示した。各下位尺度の平均値が2を超えており、強い困難や問題を感じている学生は少ないと言える。特に数学は、ほとんどの学生が困難を感じていなかった。これらの結果は、項目単位の分析と同様であった。

次に、アクティブ・ラーナー学生用質問紙の各下位尺度とAD/HD傾向、ならびにストレス関連尺度との相関係数をTable 2に示した。AD/HD傾向、特に多動、注意、無秩序、かんしゃくの下位尺度は、アカデミック・スキルのほとんどすべての下位尺度と有意な相関がみられた。また、学習スキルとノート・テイキングについては、困難の少なさと学年は有意な負の相関を示した。つまり、学年が高くなるほど、学習スキルやノート・テイキングに困難を感じていると言える。

考察

アカデミック・スキルに関する質問紙について

アクティブ・ラーナー学生用質問紙の項目単位の分析においても、下位尺度単位の分析においても、多くの学生が、アカデミック・スキル尺度における学修上の困難を感じていなかった。特に、数学技能や筆記の基礎技術において、困難を示す者は少なかったと言える。日本において数学教育が比較的充実していることや、日本語の正書法が英語のそれと比較して明確であることなどが影響していると言えるかもしれない。しかしながら、質問の設定によって反応は異なると考えられるため、本質問紙の単純な評価から学修困難を判断することはできない。

個々の学生における学修困難を見いだすためには、適切な標準データとの比較が必要になる。そのためには、アカデミック・スキルの構造を明確にし、それらを評価する質問項目の表現を適切なものにする必要がある。さらに、これらの質問紙を多数の学生に実施し、標準的なデータを得る必要がある。今回用いた尺度では、学修に困難を示した学生は少数に限られたが、本尺度を用いて、少数の学修困難学生をスクリーニングできる可能性が示唆された。

また、アカデミック・スキルの構造として、読書、筆記などの基礎学力因子、時間の管理、ノート・テイキングなどの、学力そのものではないが、学修基礎スキル因子、数学的技能に関する因子の3つの因子が想定される。大学における学修に必要な技能と言えるが、現実的な支援を行うためには、より詳細な因子を同定する必要がある。そのためには、項目内容をより厳密に検討し、数多くの対象を用いた分析が必要になる。また、尺度得点と実際の学習困難の関連性について検討する必要もある。

アカデミック・スキルとAD/HD傾向との関連性について

アクティブ・ラーナー学生用質問紙の下位尺度はAD/HD傾向と有意な相関が見られ、AD/HD傾向の学生が学

Table 2 アクティブ・ラーナー学生用質問紙(アカデミック・スキル尺度)の記述統計とAD/HD傾向詩尺度ならびにストレス関連尺度との相関係数

アクティブ・ラーナー学生用質問紙	平均	標準偏差	相関係数								ストレス関連尺度	
			学年	多動	注意困難	感情易变性	無秩序・課題完遂不能	かんしゃく	情緒	衝動性	ストレス反応	ソーシャルサポート
組織化	2.473	0.377	-.079	.291**	.332**	.171	.486**	.299**	.219*	.233*	.300**	-.170
時間の管理	2.422	0.451	-.088	.226*	.292**	.153	.491**	.302**	.229*	.150	.288**	-.250**
ものの管理	2.540	0.412	-.041	.292**	.284**	.142	.322**	.198*	.135	.280**	.221*	.003
試験を受ける	2.411	0.332	-.142	.420**	.476**	.236*	.521**	.356**	.336**	.288**	.482**	-.032
学習スキル	2.287	0.464	-.199*	.467**	.529**	.244**	.644**	.458**	.303**	.273**	.533**	-.232*
ノートをとる	2.514	0.456	-.190*	.388**	.490**	.123	.575**	.233*	.205*	.199*	.327**	-.087
読書	2.224	0.453	-.012	.405**	.478**	.167	.578**	.303**	.171	.316**	.228*	.021
語彙	2.177	0.626	-.139	.270**	.339**	.124	.489**	.188*	.078	.281**	.239**	.122
理解	2.238	0.449	-.100	.418**	.485**	.168	.555**	.319**	.190*	.298**	.200*	-.022
筆記	2.381	0.439	-.086	.428**	.558**	.191*	.546**	.316**	.218*	.290**	.399**	-.192*
メカニクス	2.639	0.388	-.139	.372**	.378**	.224*	.299**	.217*	.144	.203*	.340**	-.243**
作文	2.159	0.585	-.041	.385**	.563**	.139	.591**	.316**	.221*	.288**	.363**	-.129
数学	2.811	0.326	-.125	.386**	.364**	.418**	.415**	.335**	.332**	.065	.219*	-.093
基礎的スキル	2.832	0.316	-.068	.363**	.288**	.412**	.327**	.251**	.319**	-.007	.171	-.049
代数の基礎	2.801	0.358	-.141	.368**	.370**	.389**	.423**	.346**	.313**	.091	.224*	-.105
高度な思考	2.410	0.525	-.072	.379**	.488**	.250**	.634**	.298**	.258**	.318**	.253**	0.00

* , $p < .05$; ** , $p < .01$

修上の問題を持ち、その支援が必要であることを示している。

本研究結果の限界ならびに今後の展望

本研究で用いた質問紙は、十分な項目分析や、信頼性、妥当性の検討を経していないため、結果の解釈には注意が必要である。また、対象者数は少なく、結果の安定性も不十分であると考えられる。今後、質問紙の十分な検討を経た上で、より多数の対象者による研究が望まれる。

文献

- 林恭平(2013). 潜在的発達障害を持つ大学生の相談施設利用に関する調査—対人恐怖心性と比較検討・困難感尺度の作成を通して— 帝塚山大学大学院心理科学研究科2013年度修士論文.
- Minskoff, E. & Allsopp, D.(2002). *Academic success strategies for adolescents with learning disabilities and adhd*. Paul H Brookes.
- Wender, P.H. (1995). *Attention-deficit hyperactivity disorder in adults*. Oxford University Press.
- 文部科学省(2012). 通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果.
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/_icsFiles/afieldfile/2012/12/10/1328729_01.pdf (2014/8/29)

注

- ¹ 本研究は平成26年度帝塚山学園学術教育研究助成基金により助成を受けた。また、研究の一部を日本応用心理学会第81回大会において発表した。

An assessment of academic skills and tendency of attention deficit / hyperactivity disorder

Junichiro OOKUBO

Abstract

Background and Objectives: Recently, the number of college students with attention-deficit/hyperactivity disorder (AD/HD) has been increased in higher education. Students with AD/HD have many difficulties with social, emotional, and academic adjustment in campus. The purpose of present study was 1) to identify academic difficulties which average students were experienced, 2) and to examine the association between academic difficulties and AD/HD tendencies. **Method:** Participants were 116 college students (74 females and 42 males). Students have completed questionnaire consisted of items about 1) academic difficulties, 2) AD/HD tendencies, and 3) stress responses. **Results:** Fewer students (less than 5%) reported that they have experienced difficulties with basic mathematical skills and basic writing skills. And, 20% or more students reported that they have experienced difficulties with learning methods skills and skills of composition (writing essays). Scores of AD/HD tendency significantly related to many items of academic difficulties. And, scores of learning method skills and note-taking skills were significantly related to grade of students. **Conclusions:** Results revealed that AD/HD tendencies may have negative effects on academic performance in college. And, present study suggested that it was imperative to provide academic supports to students with ADHD tendencies.

Keywords: academic skills, AD/HD tendency, academic support